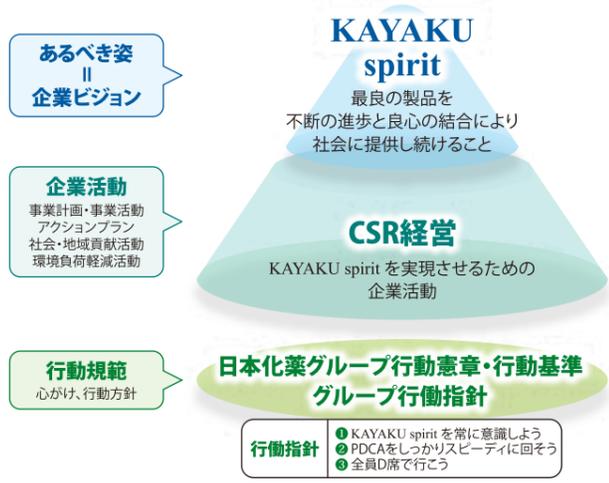


## CSR経営の考え方

日本化薬グループは、KAYAKU spirit「最良の製品を  
 不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」  
 を実現することによりすべてのステークホルダーの信頼  
 に応えるCSR経営を行ってまいります。

### KAYAKU spirit とCSR経営

KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心  
 の結合により社会に提供し続けること」は、日本化薬グ  
 ループの企業ビジョンです。KAYAKU spiritは50年  
 以上前に制定された社是をもとにしており、私たちの中  
 ずっと息づいているCSR経営の原点となる考え方です。当  
 社グループではKAYAKU spiritを実現させるための  
 企業活動を行うことによって、すべてのステークホルダー  
 の信頼に応えるCSR経営を実現してまいります。



※企業ビジョンである KAYAKU spirit を実現させるための企業活動としてCSR経営を位置付けています。

評価

アクションプラン  
 ・企業ビジョン、CSR を啓発する

2013 年度の目標  
 ・教育研修の継続実施  
 ・CSR 関連プロジェクトの組織横断的運営  
 ・会議・社内誌などによる啓発活動の継続

### CSR 経営実現のための取り組み

全事業をCSRの観点から判断できる体制とするため、  
 社長を委員長とし、各事業を統括するすべての役員執行役  
 員をメンバーとするCSR経営委員会を設定しています。また、  
 事業戦略とCSR活動が一体となるように、中期事業計  
 画と連動した中期CSRアクションプラン(p6, 7)を策定  
 し、外部にも公表するとともに、そのPDCAを実施してい  
 ます。

日本化薬グループの全従業員がCSR経営の意義を理  
 解し、一体となって目標に向かえるように、経営幹部や各  
 事業場の責任者からのCSR意識の浸透に加え、年間数十  
 回のCSR研修・コンプライアンス研修を行っています。また、  
 組織横断的な社内プロジェクトを結成し、全社での  
 CSR活動を推進しています。この他、優秀なグループ会社  
 の取り組みについては全グループ会社で共有するなどの  
 試みを進めています。



## コーポレート・ガバナンス

日本化薬グループは、経営の透明性の確保が重要な課題で  
 あると認識し、自律的なガバナンス体制を整備し、コンプ  
 ライアンスを企業活動における最優先事項と位置付けて  
 います。

### コーポレート・ガバナンス

#### ●コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

日本化薬グループは、社会から信頼される企業であるた  
 めに、株主・投資家の皆さまへのタイムリーかつ公正な情  
 報開示、チェック機能強化による経営の透明性の確保が重  
 要な課題であると認識し、自律的なガバナンスを整備して  
 います。

#### ●コーポレート・ガバナンス体制

日本化薬グループは、取締役会の合議制による意思決定  
 と監査役制度によるコーポレート・ガバナンスが経営機  
 能を有効に発揮できるシステムであると判断しています。

2005年8月から、経営の「意思決定・監督機能」と「業  
 務執行機能」の役割を明確に分離し、それぞれの機能を強  
 化して適切な意思決定と迅速な業務執行を行っています。  
 また、経営責任および執行責任の明確化のため、取締役と  
 執行役員の任期を1年としています。

さらに、2013年6月から社外取締役を導入しました。こ  
 れにより、経営の透明性を高めるとともに、コーポレート・  
 ガバナンス体制のさらなる強化を図っています。

当社は監査役会設置会社で、社外監査役3名を含む5名  
 の体制です。監査役が取締役会等の各種社内重要会議に出  
 席する他、内部監査部門との情報交換等を通じ、独立した  
 立場から取締役の職務執行の監視、監督を行っています。

評価

アクションプラン  
 ・コンプライアンスを啓発する

2013 年度の目標  
 ・全従業員を対象にした  
 コンプライアンス研修の実施  
 ・コンプライアンス・アンケートの実施

### コンプライアンスの浸透と醸成

日本化薬グループは、コンプライアンスを企業活動にお  
 ける最優先課題と位置付け、2011年に「日本化薬グル  
 ープ行動憲章・行動基準」を制定し、各事業場・国内グル  
 ープ会社に倫理責任者と倫理担当者を置き、倫理委員会と  
 連携を取りながら運用を図りました。海外のグループ会社  
 はそれぞれの国の実情に合わせ同様に進めていくよう  
 リーダーと打ち合わせました。

また、62の部署や事業場でそれぞれ独自に「コンプライ  
 アンス・アクションプラン」を策定するように依頼し、現場  
 での具体的な活動を実施しました。引き続き日本化薬グ  
 ループ一丸となり取り組みます。



コンプライアンス推進担当による研修

## VOICE KSM社での KAYAKU spirit 浸透活動 David Gutierrez, Isabel Cedillo Ayala

KSM<sup>※1</sup>社は、2007年設立当時から日本  
 とメキシコ、それぞれの文化を尊重し、それぞ  
 れの良い点を融合させ、KSM社独自の文化  
 を創り出すことを検討してきました。

2011年には日本化薬グループの企業ビ  
 ジョン KAYAKU spirit を従業員に正しく  
 伝えられるよう、スペイン語版 KAYAKU  
 spirit を作成し、教育を始めました。従業員  
 に説明するだけでなく、全員参加型とし、月度

のトピックに関連するビデオの活用や対話  
 形式のゲームによって理解を促しました。

従業員が KAYAKU spirit の基本を理  
 解した後、従業員の家族や地域社会にも広  
 げるべく、浸透活動の一環として、家族参加  
 イベントの開催や、車いす、クリスマスのお  
 もちゃ、古着の寄付などの支援活動を行  
 いました。



KAYAKU spirit 研修

※1【KSM】 Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V. (メキシコ国モントレー市にある自動車用安全部品の生産販売会社)

## TOPIC 日本化薬グループのBCPへの取り組み

BCP<sup>※1</sup>訓練には社長をはじめすべての  
 の役員が参加し、2012年度は本社と機  
 能化学品事業本部、そして2013年度は  
 医薬事業本部において外部コンサルタン  
 トの指導のもとで行いました。BCP訓練  
 の想定は関東北部にM8の地震が発生  
 し、高崎工場が被災した場合とし、医薬  
 事業の事業復旧を中心としたブラインド  
 シミュレーション形式で実施しました。

その結果、「中央災害対策本部長(社長)」  
 の指示で設置された「医薬事業本部災害  
 対策本部」が生産管理、出荷・顧客対応を  
 中心に復旧計画案を作成し、「中央災害対  
 策本部」に復旧計画案を報告して予定通り  
 終了しました。BCP訓練はBCPマニュアル  
 を「絵に描いた餅」にしないためにも今後  
 もすべての事業部で実施していきます。

※1【BCP】Business Continuity Plan, 事業継続計画

